

2022.12.18. あるクリスチャンはなぜ揺さぶられないのか

第二ペテロ 1 章 12～15 節

JD ファラグ牧師

天なるお父さま、主よ、私たちがあなたと一緒にいて、全てが完璧になるその日をとても楽しみにしています。その日は、どんなに素晴らしい日となるのでしょうか。主よ、この場所でこの時を過ごせることを感謝します。このような時でも、恥じることなく、主よ、全く臆面もなく、過ごすことができます。

第一礼拝のメッセージのように、主よ、私たちはただ、ただあなたを賛美できます。私たちがこの世から連れ出される時も、そうすることを祈ります。

主よ、今朝のメッセージの中におられ、私たちの心に語りかけてください。今日、語られ学ぶすべてであなたを讃えることができますように。イエスの力強い御名によって祈り、私たちは言います。アーメン。アーメン、アーメン。おはようございます。ご着席ください。ようこそ、歓迎します。

礼拝に参加くださり、とても嬉しいです。オンラインでも参加の方も歓迎します。参加くださり、大変嬉しいです。始める前に案内ですが、来週の日曜日が、もうクリスマスだとは信じられます？ ストレスになっていませんか？ クリスマスの日曜日、朝の礼拝はありませんので、ご注意ください。ただし、クリスマスイブ礼拝があります。土曜日の夜、午後 5 時から始まります。また、1 月 8 日（日）に再開するまで、今年の「第二ペテロの手紙」の学びは、今日が最後です。その期間の説教は、マック牧師とレイトゥ牧師に代講してもらいます。ということで、今週の木曜日から、マック牧師 ...ええ、皆さんそう言って下さるのが好きです。彼らは、本当に喜ぶと思います。一拍手ー 彼らの励みになります。ですから、今週の木曜日から始まって、まずマック牧師が教え、私はクリスマスイブにはいますが、その後、1 月 8 日に戻り、「聖書預言・アップデート」と、「第二ペテロ」の学びを再開する予定です。

それでは、御言葉に入りましょう。「第二ペテロの手紙 1 章」素晴らしいこの第二の手紙を、一節ずつ学んでいます。先週の続きで、12 節から 15 節まで進みます。可能な方はご起立ください。私が読みますので、付いてきてください。無理な方は、着席のままで結構です。使徒ペテロが、聖霊によって書いてます。

12 節、

—II ペテロ 1:12—

ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起こさせるつもりです。

—II ペテロ 1:13—

それを思い起こさせて、あなたがたを奮い立たせることを、私は地上の幕屋にいるかぎり、なすべきだと思っています。

—II ペテロ 1:14—

私たちの主イエス・キリストが示してくださったように、私はこの幕屋を間もなく脱ぎ捨てることを知っています。

—II ペテロ 1:15—

ですから、ぜひとも、私が去った後いつでも、あなたがたがこれらのことを思い起こせるようにしておきたいのです。

祈りましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。天の御父よ、本当に感謝します。主よ、あなたの御言葉の中で共に過ごせるこの時間を、心から感謝します。今、私たちの時間です。特にこの季節、スト

レスや忙しさを脇に置き、聖霊によって、私たちの心を落ち着かせ、注意をひきつけようとする全事柄で、常に慌ただしくなる心を静めてください。

主よ、聖霊がそのすべてを追いやってくださることが必要です。そうすれば、私たちの全集中をあなたに捧げることができます。

主よ、どうか私たちの心に語りかけてください。そのため私たちはここにいます。私たちは飢え渴き、主よ、あなたを切に求めます。私たちが抱く切望を満たせるのは、あなただけだということを知っています。主よ、そうなさってくださいませんか？ 今、語ってくださいませんか？ あなたのしもべたちが聞いています。感謝します。イエスの御名において。アーメン、アーメン。ご着席ください。ありがとうございます。

では、今日お話ししたいのは、「あるクリスチャンはなぜ揺さぶられないのか」彼らは何があっても、誰が敵対しても、決して動じません。よく聞いてください。決して落胆しないクリスチャンの話との印象を持たれたくないからです。ここで話すことは、全く違います。それについては、後ほど、もう少し詳しく説明します。ここで話すのは、あるクリスチャンが揺るぎない、不動の信仰を持っているようである事。人生で何が起ころうとも、彼らは堅く立ち、何事も彼らを揺がすことはありません。「使徒の働き 20 章 24 節」の使徒パウロを思い浮かべます。パウロを好きにならなくっちゃね。彼は基本的にこう言います。

「私を揺るがすものは何もない」実際、何もありませんでした。その理由を彼はこう説明します。

「私にとって、この世は、ゴミ同様だからです。この世のすべてのものは、何の意味もなく、取るに足らないもので、何の影響もないと考えます。ですから、何も私を動かさない。何にも揺さぶられない。」

ですから今私たちは、信仰が揺さぶられる話をしてます。「パウロは落胆したのでしょうか？」そう思った方がいいですよ。「パウロは、恐れたのでしょうか？」もちろんです。実際、「使徒の働き 27 章」を見ると、彼は、難破しそうな船の上で、とても恐れています。これは、パウロの最初の難破ではありません。私が記憶が正しければ、これは彼の 4 回目の難破です。彼は、この難破で死ぬと思っています。しかしパウロはローマ皇帝の前に立つという神からの約束をこっそり持っています。神がパウロに告げられなかったのは、「あなたは、旅の途中でマルタ島に立ち寄ることになります。わたしは彼らが救われることを望んでいるからです。」

パウロは、マルタ島で難破し、その結果、多くの者が救われました。そして、彼はローマに辿り着きます。しかし、今ここで、彼らは嵐の中にいて、ルカはそれを聖霊によってこう記しています。

「“私たち”が、助かる望みも今や完全に絶たれようとしていた。」(使徒 27:20)

待ってください。”私たち”って誰？ ルカとパウロです。「パウロは希望を捨てていたってこと？」「そうです。」ちょっと待って！ パウロには、ローマ皇帝の前に立つという神からの約束がありました。これは私たちが話している使徒パウロですよ。その同じ話で、パウロが非常に恐れたので、神が御使いを遣わされ、こう言わせねばならなかったと記されています。(27:24)

「恐れることはありません。パウロよ。」聖書の中で、「恐れるな」と書かれているときはいつも、なぜそうなるのか、分かりますか？ 深い意味があるんでしょうけど、彼らが恐れているからです。

「私たちが話しているのはパウロですよ。」分かっています。彼は怯えていました。彼は恐怖でいっぱいでした。恐怖にまみれていました。すると主の御使いが彼のところに来て言います。「あなたは乗り越えます。」私がパウロなら、「へ？へ？乗り越えると思えません。そうは見えません。これがその終わり方だと確信してます。」「いいえ、あなたは乗り越えます。今にわかります。」「これはまずい。恐ろしい嵐です。」

非常に困難極まりないです。」「いいえ、あなたは必ず乗り越えます。」

しかしパウロの信仰は、決して揺らぐことはありませんでした。彼の信仰は、決して揺らぎませんでした。そうイエスは仰いました。

「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。」(ヨハネ 10:10)

「サタンが、盗み、殺し、滅ぼそうとするものは何か？」が問うべき質問です。敵は、私たちの喜びを盗み、希望を殺し、信仰を滅ぼしたいのです。それがサタンの目的です。私たちは、時にそれを「信仰の危機」と呼びます。疑心暗鬼に陥り、主を疑い始める状態です。それがもし、今日ここにいるあなたなら、あなたは仲間ですよ。あなたは誰と仲間か分かりますか？ バプテスマのヨハネです。スタッフと話したのですが、私にはぶっ飛ぶような話です。バプテスマのヨハネですよ。ヨハネがまだエリサベツの胎の中にいたとき、救世主を身ごもったマリアが近づくと、ヨハネはエリサベツの胎の中で躍りました。

(ルカ 1:41 参照)

早送りして、30 数年後、多分、33 年後くらい経ち、このヨハネは荒野で、先駆者となり、イナゴを食べ、荒野で暮らし、悔い改めを説きました。これがバプテスマのヨハネです。そして今や、ヨハネは牢獄に入れられ、疑いを持ち始めました。それでどうしたのか？ 彼は、イエスのもとへ弟子を送り、尋ねさせます。

「おいでになる救世主はあなたですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか。」(マタイ 11:3)

なんと、バプテスマのヨハネですよ。彼は疑っています。彼は「信仰の危機」を迎えています。とても興味深いのは、イエスが、ヨハネの質問に直接答えておられない事です。イエスは、基本的に、預言者イザヤの言葉を引用して仰います。

「ヨハネに伝えなさい。見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩く。」

訳すと、「そうです。わたしが救い主です。」ヨハネの問題は、何だったのか？ ヨハネ問題は、イエスが、自分を牢獄から解放して下さるのを待っているのに、そうではなかったことです。つまり、イエスは、ヨハネがしてくださると望んでいたようなことをされません。イエスの道は私たちの道ではなく、イエスの思いは高尚すぎて、私たちには理解できないのです。で、再度今日、私が話したいことは、そういうクリスチャンについてです。私が、何を言おうとしているか分かりますか？ こういうクリスチャンは、つまり、岩のように堅固で、確固としていて、動じません。

「第二ペテロの手紙」のおもな目的は、単に彼らを励ますことではないことを心に留めておいてください。彼らはとても落胆していました。繰り返しになりますが、聖書に「励ます」と書かれている時はいつも、彼らがとても落胆しているからです。彼らはとても落胆していました。圧倒的な迫害のもとで苦しんでいました。ですから、ペテロは彼らを励ましたいのですが、同時に警告もしたいのです。なぜか？ なぜなら、第一の手紙と第二の手紙の間の一年間に、偽教師たちが偽りの教義を携え入り込んできたからです。ペテロは、このような偽教師たちによって、揺り動かされたり揺さぶられたりせず、堅固、健全で、強くあるよう願うのです。彼らが堅固な岩、不動であるように。ペテロはそうします。ペテロは3つの特徴に焦点を合わせることでそうします。3つの属性とでも言いましょうか。私たちもこう言われる人々の仲間に入ることができます。「彼らはしっかりしてる。全く動じない。揺さぶられず、不動だ。」12節の最初です。「彼らは基礎を身につけている」この文章を読んでいて、ペテロが聖霊によって、「思い起こす」という単語を使って記憶を思い起こさせることが少なくとも3回あるのに気づきましたか？ これを忘れないでください。そのため彼はこの二通目の手紙を書きました。彼は自分がいなくなったときのため

に記録を残しています。彼らに戻る場所があるのです。彼らは、何に戻るのでしょうか？「基本」です。ペテロは、彼らが知らないことは何も話していません。すでに知っていることを思い出してもらいたいです。こう聞いたり、言ったりした人は多いでしょう。「基本に立ち返る。」ペテロが言っているのは正にその通りです。時に一步下がって、信仰の基礎・基本に立ち返ることが必要です。私たちは、その中で造り上げられる必要があります。ペテロの言い方が好きです。

「あなたがたがすでに知っていることを知ってます。あなたが知らないことは、私は何も教えていません。私あなたが望むことは、これを覚えていて決して忘れないことだけです。」

私たちは人生を歩むにつれ、主との歩みの信仰の基本やシンプルさから遠ざかってしまうのが真実ではないでしょうか。一番強く立てるのは、そうやって確立された人たちです。基礎を身につけています。見下すわけではありません。そんな風に言っていていいですか？

「お～初歩的ですよ。非常に基礎じゃないですか。」と 例えば、これは難しいですが、こうです。どれほど基本的でしょう。神の御言葉と祈りです。「そんなの知ってるよ！」分かりました。基本に立ち返りましょう。基本とは何か？ 神の御言葉と祈りです。「そんなの分かってるよ！」分かりました。もう一度やってみましょう。神の御言葉と祈り。それだけです。「基本中の基本だ。」分かっています。しかし、どうやらあなたは基本に立ち返る必要があるようです。なぜなら、実はそれ以外の本を持っているからです。ふむ。御言葉に戻ればどうですか。このことは、たまに話します。しばらく話してませんでしたので、初めての方は、初耳でしょう。何年も前のことですが、私は「祈りの人」になる必要があると感じました。

「わお～、あなたは祈りの人なんだ！」みたいな目で見ないでくださいね。このことは妻には内緒ですが、そこで私はし始めました。祈ったんです。ちなみにこれは非常に危険な祈りです。本当に皆さんに警告します。「主よ、私を祈りの人にしてください。」とは祈らないでください。なぜなら、あなた担当の御使いたちは、天で、「いや、そんなはずはない。」と言うからです。「いえ、彼はそう祈りました。」「え？彼は祈ったの？ 祈りの人になりたいと祈ったの？ わお～大変だ。」

もし神が、私を祈りの人にするために何をされるのか知っていたら、私はそう祈ることはしなかったでしょう。主は、そうなされました。祈りに答えて下さいました。「祈りの人にしてほしいのかい？」神は、その祈りに答えて下さいます。それで私は、こんな感じです。「よし、祈りの本を買おう。」E.M.バウンズ。祈りに関する彼の本を読めば分かりますが、彼は、真の祈りの人です。それで、彼の本を手に入れました。タイトルは忘れました。彼は何冊か書いています。もちろん彼は今、主とともにいます。こんな分厚い本でした。祈りに関する膨大な著書でした。私は「よし、この祈りの本を読むぞ。」すると、聖霊が主だけがお出来になる方法で、静かで小さな御声で仰います。「ただ祈ってみれば？」—(笑)—

考えてみてください。この祈りの本を読むのにかかる時間で、どれだけ祈りに費やせる時間があるか分かります？ というわけで、私はそれを本棚に戻しました。それ以来、読んだことがありません。それで私は祈り始めました。なぜこのような例を上げたかという、私たちは、祈りや御言葉のシンプルさを否定しがちだからです。私たちはそれを複雑にしてみましたよね？ 私たちは、祈りを、全く違うものにしてしまいました。祈りとは何か知っていますか？ 神との対話です。神と話すこと。それが祈りです。そして、神の御言葉は、神があなたに返答されるものです。祈りは独白ではなく、対話だと言われています。電話の例えを使います。これでは古すぎるので使えませんね。今は、携帯電話を使わなければなりません。今はこんな感じでしょうか。あ、すみません、エアポズ。失礼しました。祈りがマイクで、

御言葉がイヤホンです。あなたは祈り....それは基本ですよ。まったく基本です。しかし、私たちはそれを否定し、新しい本を探します。

「わお～！新しい本が出たそう。すぐ買いに行こう。」あなたには、(聖書) 六十六巻あるじゃないですか。基本すぎますか？「おお、カンファレンス！」「私には別の.....」私がこう言うのを信じてください。

「今一番必要なのは別のカンファレンスではありません！」さらに言えば、「あなたには説教も必要ないよ。」では、もう祈って終わらしましょう。(笑) そんなものは必要ありません。私たちには主が必要です。私たちは、それらすべてを、主との間に置いてしまうのです。ありがたいことに、神はそれをとて基本的で、とてもシンプルにしてくださいました。ただ基本を身につければいいのです。ある分野で、特定の人が目立つのは、一世俗的な領域の話ですが、特別な才能ではないと思います。その人たちは基本を身に着け、それを何度も何度も繰り返しています。私が間違っていなければ、私たちはレースに参加していますよね？ 私たちがクリスチャンの信仰と呼ぶものには、競争原理が働いています。私たちは、レースに参加するだけではありません。よく言われる通り、私たちは勝つために参加しています。私はレースを走り終えたいです。完走したいです。私たちは戦いの中にいます。信仰の善い戦いです。私は際立ちたいです。勝ちたいです。競争心のある人、あなたは自分が何物か分かっていますよね。手を上げてとは言いません。私たちには競争心があります。車が渋滞すると露わになりますね。もう白状するつもりはありません。(笑)

そう、誰かに先を越されたり、割り込まれたりすると...これ以上言いません。私はもう自分の罪を次から次へと白状しました。しかし、人が際立つのは、基本を身に着けている時です。その基本とは何でしょうか？ 御言葉と祈りです。祈りと神の御言葉の基本を身に着ければ、何も動じることはありません。なぜそうなるのか？ どうしてそんなことができるのか？ あなたは常に意識的に神と交わり、御言葉を持っています。詩編 119 篇にあります。「私の盾です。」

「あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。」(詩篇 119:105)

その全てが。それが岩で、土台。神の御言葉です。御言葉の上に強くあるならば、何もあなたを動かさません。あなたが不動なのは、堅固だからです。揺るぎない「岩」です。ですから、彼らは基本を身に着ける。そして2つ目は、13節と14節、とても興味深いのですが、「彼らは軽く関わる」ペテロは、残された短い時間を活用しようとしています。なぜなら、彼はその時が近いのを知っており、イエスが、彼の出発を示されたので、その時が来たのを知っています。彼はこの言葉を使っています。私はこの言葉が大好きです。「幕屋」私たちの体は幕屋です。幕屋みたいな体型の人もいますね。すみません。まずかったですね。幕屋とは何か？ 一時的なものです。幕屋は一時的です。

「おい、建てるぞ。設計図がある。恒久的な幕屋を建てるんだ。」それは、私の出身地では矛盾します。幕屋というのはその性質上、一時的です。実はペテロは、「ヨハネの福音書 21 章 18、19 節」で、約 30 年前にイエスが語ったことを指します。彼は何年も経ってから、自分の死が迫っていること、神が幕屋を脱ぎ捨てさせようとして知っていることを知っています。そうなる前に、ペテロは彼らのために記録を書き残したいと思っています。なぜか？ ペテロは彼らを愛しているからです。だからこそ、神は聖霊によってペテロを導かれ、第二の手紙を書かせられました。

「私はもう長くはないので、記録として残しておきたいのです。私がいなくなった後、これを持ってほしいのです。これを持って欲しい。」このことは、長年に渡り御言葉を一節ずつ学んできた中で、皆さんも同意されると思います。でも、こういう共通点があります。確かにこれは、不動な人の属性とい

う点で真実です。彼らの宝は、この地上に積んで蓄えているのではないから不動なのです。だから、何かが起きて市場が揺れ動いても、自分たちと関係ないから揺ぎません。

影響されません。

「ええ、でも、あれはかなりの金融危機でしたよ。」「分かっています。でも、私の幕屋は大丈夫です。影響ありません。」この世や、この世の物に軽く関わるとそれに比例して、この世のことに揺さぶられなくなります。あなたに影響しません。

「マタイの福音書6章」には、イエスの「山上の垂訓」と愛称しますが、とても興味深いことが書かれています。私はこれを「金額の垂訓」と呼びます。イエスが語るのは.....つまり、ずばりお金の話です。

「あなたがたは、神と富の両方に仕えることはできません。どちらか一つです。地上に、自分のための宝を蓄えると、虫やさびで傷物になり、政府が....いや、すみません、盗人が盗みます。」(マタイ 6:9-20 参照)

ちなみに、彼らはそうします。補足で言ってみました。追加料金なし、ダジャレです。その時がもうすぐ来ますよ。「聖書預言・アップデート」で話しました。地上に宝を持たない人たちが心配すると思いますか？ イエスその後、心配事の治療法について話されるのは興味深いと思いませんか？

「なぜそんなことを心配するのですか？ 宝が天にあるのなら、この世のことは執着せず、心配することはないでしょう。」

「経済崩壊、やって来い。私の有価証券は天にある！ほ～～、あれ見てごらんよ。ちなみに、あなたは触れないよ。政府は、手も出せないよ。」

天で、安全に私を待っています。そして永遠に、多額の利子を生みます。それで、私は何を心配しているのか？ どうやら、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと心配しているようですね。そのような天の父を持たない者は、心配してあちこちに走り回るけれど、あなたはそうではない。もし天の父が、野に咲くあの花を養われるなら.....ところでとても美しいです。栄華を極めたソロモンでさえ、その花の一つのように着飾ることはありませんでした。その花は、今日ここにあって明日には消えてしまいます。あなたはどれだけ価値がありますか？ 花は神によって創造されましたが、神に似せて創造されたわけではありません。あなたはそう造られました。神がその花を養われるなら、あなたも養われるのではないですか？ そしてイエスは、鳥をも指差し(ポイント)ておられます。これは、パワーポイント以前の話ですよ。-(笑)- とにかく、これは山頂の説教の話です。イスラエルと一緒にに行ったことのある方は分かりますね。まさに息を呑むような美しさです。ガリラヤ湖があり、季節によっては鳥や花が咲き乱れ、イエスが鳥を指差している姿が目につかびます。「あそこにいる鳥が見えますか？」はい。

「納屋にミミズを詰め込んで、将来へのリスク回避をしていますか？」いいえ。

「来月の家賃を心配してる鳥がいるでしょうか？」いいえ。

「なぜでしょうか？」神が、空の鳥を養われるからです。神は鳥を創造されました。しかし、ご自分の似姿に鳥を創られたわけではありません。神は、あなたがたを、ご自分に似せて創られました。

「何が言いたいのですか？」つまり、神が空の鳥や、野に咲く花を養われるなら、あなたも養われるはずですよ。それなのに、どうしてそんなに心配するのですか？ なぜそんなに恐れでいっぱいなのですか？

「まず求めなさい。」マタイ6章33節です。この聖句はよく知られています。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」これが33節。34節は、ちょっと難しいですね。33節で止めて欲しかったです。34節は、「苦勞はその日その日に十分あります。」

訳すと、「明日には明日の心配があなたを待っています。」見てください、心配性として…回復中の心配性です。神は私の人生に、大きな働きをしてくださいました。私は知りたくないのですが……あなた方の中には、自分がどういう者か知っている人もいるでしょうから、指は指しません。指さす時は気をつけないとね。あなたは自分を分かっています。

「待って、明日の心配が私を待ってるの？」とあなたは思っています。だから、明日の心配をし始める。誰かが言ったことが好きです。すごくいいです。「今日は、昨日心配した明日です。」もう一度言います。

「今日は、あなたが昨日心配した明日です。」大丈夫！ 心配事が実際に起こる割合についての研究がありますよね。かなり高い割合です。正確には言えませんが、約90%くらいでしょうか。私たちが心配することの90%は決して起こりません。そうすると、「何のために心配したんだ？」と腹が立ってきます。夜中に何度も寝返りを打ち、眠れなかった。今、何人かの方「ちょっと待って」という感じで私を見ていますね。「90%って言いました？」はい。おそらく90%以上でしょう。残りはどうなの？ —(笑)— だってほら、1%でも心配になるじゃないですか。1%が気になりますよね。ではこれはどうです？ これはクリスチャン的文脈ですが、その割合が何%であろうと10%であっても、実際に実現する。いやだ〜！ しかし、神は、その恵みによって、乗り越えさせてくださいます。そんな心配も無用です。「心配する一分は、無駄な一分間。」という言葉聞いたことがあります。心配する必要はありません。さて、これには前提条件があります。前提条件として、この世の仮りの土壌に深く根を下ろさないことです。もしそうなら、すべてがあなたを混乱させることになるからです。すべてがあなたを揺さぶります。あなたはあらゆることに心配します。あなたは心配します。どうして？ この世のことだからです。ここでは脆弱だからです。これは、使徒パウロが「ピリピ人への手紙4章」に記した事です。これまたとても基本です。あなたは何も心配したくないですか？ 方法はこうです。

「あらゆることを祈り、神に感謝すれば、何も心配することはありません。」

「神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

「平安の神は、あなたに、神の平安を与えて下さいます。」言葉遊びではありません。

人知を超えた神の平安が、あなたをしっかりと根付かせ、動かず、揺るがないものにして下さいます。なぜ？ なぜなら、あなたは堅固だからです。あなたは揺さぶられません。あなたは、この世に縛られていないから、起こること全てに対して脆弱ではない。使徒ヨハネは言います。

「世も世にあるものも、愛してはいけません。」(I ヨハネ 2:15)

私たちは世にいますが、世に属してはいません。最も苦悩しているクリスチャンは、ある種この世に執着し、不必要に動かされ、揺さぶられるのが事実ではないですか？ しかし、あなたの宝が天にあると、地上にあるものは何もあなたを苦しめることはありません。それは、あなたに影響を与えません。さて、もう一度、これを適切な文脈で説明しましょう。落胆の話をしているわけではありません。信仰の話をしています。信仰とは何でしょう？

「信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル 11:1)

ある日、私たちはもう信仰を必要としなくなります。なぜなら、私たちは主と顔と顔を合わせるからです。信仰の対極が、見ることです。しかし、それが私たちの問題です。「見ることは信じること」と言うでしょ。イエスが仰ったことは、「信じるのが見ることです。」「信じなさい。そうすれば見ます。」それを信仰と呼びます。見えなくとも、信仰によって信じるのです。あなたがたが信仰によって生きる

「義人は信仰によって生きる」(ローマ 1:17)

私たちの肉は、それに対して苛立ちます。私は、信仰で生きていきたいとは思わない。私は見たい。見て生きたい。見て歩みたい。こんな言葉があるのをご存知ですか。それはプライドと呼びます。自分が主導権を握りたいからです。コントロールできないってことは、信頼しなければならないということです。

「不可解だ。主を信じるしかない。」「うわーひどい。何があったの?」「えっと、つまり.....主に信仰を置くようになったの?」「そうです。」「私の投資ポートフォリオはこれですが、今、全部ムチャクチャで、大損している。」どうりで揺さぶられるのも無理はありません。震え上がるのも無理はありません。持てば持つほど、悩みは尽きません。少なければ少ないほど、心配も減ります。宝を移しなさい。持っていくことはできませんが、前もって送ることはできます。先に送るんです。非常に安全な場所に移せます。特に今はね。あまり深入りしません。というか、でも、その話はしましたよね。間違いなく、デジタル通貨となり、CBDC：中央銀行デジタル通貨。キャッシュレスです。そして、生体認証デジタル ID が伴い、気候変動での炭素信用点数、社会的信用点数が前提で、あなたがたは...皆さんではありません。なぜならこの地上にいない方がいいです。これは患難時代の話です。しかし患難時代には、この刻印がなければ、誰も売買することができなくなります。(黙示録 13:17)

というわけで、それがやって来ます。人類史上最高の金融アドバイスは、「マタイの福音書 6 章」だと思えます。移す。取り出して、天に積む。それが一番安全で、最善の投資です。誤解しないで下さい。あなたが何を所有するかではなく、何があなたを所有するです。あなたが何を所有するわけではありません。あなたは所有できるし、神が祝福されるなら主を褒めたたえましょう。楽しみなさい。神はあなたを繁栄させ祝福されます。神が託されたものの良き管理人となりなさい。しかし、あなたが所有するものに、あなたを所有させてはいけません。所有することがあっても、所有物にあなたを所有させてはいけません。軽く関わってください。一時的だから。ただの幕屋です。

私たちの命は、ただの霧だとヤコブが言います。(ヤコブ 4:14)

そのことを考えてください。さらに悪いことに、しばらくは幕屋で大丈夫でした。でも霧って、プッシュンどこに行ったの? 消えました。最後の 1 つ、「箴言」です。私の好きな「箴言」の 1 つです。もちろん他もお気に入りですが。基本的にこんな感じです。

「富に目を奪われるな。自分の富にしがみつき過ぎない。」なぜだか知りたいですか? よくぞ聞いてくれました。理由はこうです。

「富は必ず翼をつけて、鷲のように天へ飛んで行く。」(箴言 23:5)

毎月の給料と同じように聞こえます? なんだか、「お〜、どこに行くの?」「バイバイ。」つまり、富に信頼を置いてはいけないということです。気まぐれなのです。羽が生え、飛び立ち、消えていきます。強く握りしめ過ぎてはいけません。持っていてもいいんですが、それに所有されないように。それに支配されないでください。なぜなら、それがあなたを支配していたら、すべてがあなたを動揺させ、揺さぶることになるからです。海の波のように、あちこちに翻弄されることになります。そうではなく、あなたは堅固で、岩のように堅固になるのです。ですから、もしもではなく、何かが起きる時、それが地を震わすような事があっても、あなたは、全く動じません。「なかなかいい幕屋ですね。」幕屋が多少ぐらつくことはあっても、崩れたり、沈んだり、倒れ落ちたり、何もありません。あ〜かかって来い。こう言いますよね? 言ってから先に進みます。「早く、先に進んでください」という方もいらっしやいます。もう少しで終わりますよ。こんな諺があります。「このレースに走らず馬がありません。」(この件には関与できない)

「狩りに連れて行く犬がない。」何のことが分かりますか？ 私はこの世で投資していないので、毎朝、早起きしているわけではありません。夜眠ることができた前提での話ですけど。(株式)市場が開くのを朝起きて見ることはありません。財務ポートフォリオを見て私の人生がどうなるかが基本なら、下がると、落ち込む。上がると、喜ぶ。それは正しい生き方ではありません。それは生きる方法ではありません。それはヨーヨー・クリスチャンです。上がったたり下がったり、行ったり来たり。違います、「安定したエディ」Steady Eddie (安定して信頼できる人)。安定したエディ あってます？ 安定したフレディでもいいですよ。じゃあ、安定したベティ ー(笑)ー 要点は分かりますね？

3つ目、15節です。不動で揺るがないクリスチャンの特徴は、「永遠のために生きる」ですから、彼らは、すでに手の力を緩めています。実際、彼らは、この世やこの世の物に対して何の投資もしていません。そうしないのは、永遠を見据えて生きているからです。そう、これはとても論理的です。そのままで聞いてください。この話もしましたね。80という数字。70年にしようとしたら面倒なことになりましたね。私のメールを見るべきでしたね。本当は見ない方が良かったかもしれませんが、で、80に上げてみました。この世で、80年生きるとします。それはただただ辛い年月。とにかく80年が。では、永遠とは何年でしよう？ 修辭的質問ですね。比較しましょう。使徒パウロが言うように、

「今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、一同じ宇宙でもないー 取るに足りない私と私は考えます。」(ローマ 8:18)

つまり視点の問題、永遠の視点です。これは美しく、壮大です。ペテロは聖霊によって、この第二の手紙の目的を要約し、熱心に、あらゆる努力をするようにと勧めています。そのことが分かりましたか？ つまり、責任は彼らにあります。もう長くないだろうから、彼らが思い起こすために書いたのです。ペテロが、天幕、すなわち彼の体から離れ、主とともにあるようになるまで、それほど長くはないのです。ですから、彼はこの手紙を、彼らに思い起こさせるために書いたのです。で、その教訓は？ ええ、教訓は、「ねえみんな、私は通り過ぎていくんです。ここは私の家ではありません。ここは、私の最終目的地ではありません。永遠(が、最終目的地)です。」ペテロは、出発という言葉を使っています。私はこの言葉をとても感謝します。その特別な言葉の靈感を与えてくださった聖霊に感謝します。なぜなら、それが本当の姿だからです。クリスチャンは、移り住むのです。もう一度言います。あなたは死なず、永遠に生きます。あなたの永遠の命は、救われ、新しく生まれた時に始まったと知っていますか？ そのとき、あなたの永遠の命が始まりました。私は、パウロが、死を嘲るところが好きです。まるで死と架空の対話をしているようです。

「死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」(I コリント 15:55)

もうとげははい。私たちが悲しまないというわけではありません。パウロは、テサロニケの人々に書いています。

「私たちは悲しみますが、望みのない人々のように悲しむことはありません。」(I テサ 4:13)

なぜなら、私たちの希望はこの人生ではないからです。私たちの希望は、永遠のいのちの中にあります。あなたが人生を、自分の世界と状況を永遠というレンズを通して見るとき、そうして永遠のために生きているとき、何があなたを揺るがすでしょうか。ここは、あくまで一時的です。この世は.....もし、この世が私の家だったら、今ここに立ってはいないでしょうね。私は髪を逆立てて走り回り、どうしたらいいのか考えます。私はこうなります。「は？手放そう。手放そう。」私は、このレースに参加する馬がありません。私の投資対象は永遠。私は永遠のために生きている。あなたが行うすべて、すべての決めごと、人

間関係、人生のあらゆる領域を永遠というレンズを通して見れば、あなたの人生を変えます。それが、ペテロがここで書いていることです。

「あなたがた、私はもうすぐいなくなります。私はもう出発します。移り住みます。新しい住所へ引っ越します。そこは、とても素晴らしい、美しい地域で、すべて無料なので、さらに良いです。そこでは固定資産税がありません。最近、固定資産税の明細書が届きました。吐きそうになりました。信じられませんでした。何？ あ～、わかった。彼らは、単にもっと欲しいだけだね。とにかく、私の問題はこれで十分です。固定資産税はありません。税金がない。それだけでも！！ それだけでも！！ しかし、そうじゃないですか？ 私は昔の、古典的な、時代を超えた賛美歌が大好きです。

「イエスに目を向けると、すべてが色褪せる。世は、主の栄光と恵みの光の中で、『奇妙なほど』—この言葉が好きです—薄れていく。」

この人生を永遠というレンズを通して見ると、それがあなたに正に永遠の視点を与え、その視野に入れてくれます。ですから、震え上がりません。いつも言いますが、そういうクリスチャンの特徴ってどのようなものでしょう？ 皆さんの中にも、そういうクリスチャンがいるかもしれませんね。後で話をしたいですね。私も、何事にも動じないクリスチャンの一人になりたいです。これが最大の理由です。私はその視点に入れます。なぜなら、まったく永遠に続くものに比べればこれは無きに等しいからです。なぜ、動揺したり、揺るがされたり、揺さぶられたりするのかわからない。いえいえ。永遠。あなたはそれを覚えていますか？ 私たちは、冗談でこう言います。これで終わりますけど、

ジョークで言います。「天国に行ったら、神に質問する。」ところで、木曜日の夜、この話をしたと思うのですが、これはネタバレですけど、ただ、天国の真珠の門にいるのはペテロではないことを伝えておきます。ハーブを渡されるわけではないことも、言っておいた方がいいかもしれません。どこからその話が来たかは知りませんが、そんなこと起こりません。もしあなたが、天国の真珠の門の前でペテロに会えると期待しているなら、また翼も与えられません。さあ、聞いたことあるでしょう？

「ああ彼らは今、天使になっているんだよ。」いいえ、そうではありません。天使は、私たちより下です。私たちは、天使を裁くことになります。天使も神によって創造されましたが、神に似せてではありません。私たちが、神に似せて創られたのです。なぜか分かりませんが、人々はそんな天国のイメージがあります。それは、恐ろしいです。恐ろしい。退屈だとか。あなたはただハーブを奏でペテロが真珠の門で待っているみたいな.....ちがいます～～！ まず携挙では、キリストにある死者が先によみがえります。皆さんの愛する人たち全員です。彼らは、新しい栄光の肉体になります。そして、生きて残っている私たちは、引き上げられ、原語で、変身・たちまち瞬間に変えられ、私たちは、新しい体を与えられます。主イエスよ、早く来ててください。そして、空中で彼らに会い、永遠に主と共にいることになります。

「ペテロもそこにいるのでしょうか？」はい、ペテロに会えます。「ハーブがあるんですか？」たぶんね。私は弾きませんよ。私は、主を礼拝するだけで忙しくなります。

結論です。この世で強く立つクリスチャンは、永遠というレンズを通してこの世を見る人たちです。それがすべてを変えるのです。すべてを見通せます。なるほどという感じです。さて、ここが最終目的地だったら、問題です。でも、そうではありません。ですから問題ではありません。

カポノ、上がって来ててください。お立ちください。祈って終わります。

お父様、本当に感謝します。神よ、私たちには思い起しが必要です。最後の晩餐、過越の祭りを思い出します。あなたが弟子たちと一緒に食事をされた最後の時です。そして、あなたは、それを私たちがするよ

うしてくださいました。なぜでしょう？ あなたを思い起こすためです。なぜでしょう？ 私たちは忘れてしまうからです。私たちは忘れます。私たちは思い出す必要があります。主よ、思い出させてくださってありがとうございます。ペテロを感謝します。私たちに、本当に大切なものを思い出させてくださり、どうでもいいことが、私たちの人生影響を与えないようにして下さいました。主よ、これが、達成可能であることを感謝します。主よ、それが聖霊の御力によって実行可能であることを感謝します。

主よ、私たちに宿り、可能にし、力を与えてくださる聖霊の御力がなければ、これらの特性や属性を持つことは望めません。主よ、私たちがする最悪は、これを自分の肉のエネルギーで達成しようとする事です。私たちは失敗します。私たちはいつもそうです。しかし、あなたは決して私たちを失望させることはありません。私たちはあなたに希望を置きます。決して失望することはありません。

主よ、ありがとうございます。これを実現させて下さる聖霊に感謝します。なぜなら、ここにいる私たちの中で、特にこの終わりの時、益々困難になっていく中、人生でこれらの属性を欲しくない人はいないと思います。

イエス様、ありがとうございます。あなたをととても愛しています。イエスの御名において。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャーペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7